

The Reminiscence of Exellia NG+1

「『例外』を認めない世界」

キャラクター作成レギュレーション

基本概要

- ・ 経験点：4500 点
- ・ 資金：2500G
- ・ 名誉点：500 点
- ・ 成長回数：2 回

各種制限について

- ・ ヴァグランツ禁止
- ・ 蛮族 PC 禁止
- ・ ソード・ワールド 2.0 / 2.5 標準流派への入門、及び秘伝の習得・使用の禁止
- ・ 武器防具強化禁止
- ・ 《防具習熟 A / 盾》《防具習熟 S / 盾》の削除、及び装備可能ジョブの制限
- ・ ジョブ別の習得技能制限
- ・ レベル制限 1～2

導入

(※GM メモ：エクセリアの随想)

斯くして、この世界に渡ってきた魂たちは、確かな歩みを始めた。

このときの私をして、彼らの歩みを判ずる要素は見いだせず。今はただ、新たな幕開けに相応しい言葉だけを贈ろう。

『生きること』は、『死にゆくこと』。出会えば別れ、始まれば終わる。

当然で、そして起こるべくして起こること。それを『否定』する材料があるとするならば…、『始まり』そのものを否定することである。

あの終焉をもたらした存在や、覇界の王ならばできたかもしれないが…、それは今の私でさえも判ずることはできない。

さて、此度の冒険者は…果たしてどこへ向かうのやら。

(※GM メモ：ここから導入)

君達は、エメリーヌに指名される形で依頼を受けることになる。

エメリーヌ

「あなたたち、何か不思議な感覚に陥ったことはない？」

(※GMメモ：RP待機、その後各フレーズRP待機)

エメリーヌ

「ノイズのような感覚…。『何か』に吸い込まれるような感覚…。まるで『幻』のように浮かび上がる風景。エクセリアさえも有する、あなたが持つ能力…。精神の壁を超え、相手を『視る』ことができる、『超える力』」

「『超える力』とは、『言葉の壁』を超える力。『心の壁』を超える力。そして、幻の如く過去を見ることが出来る、『時間の壁』を超える力。まあ結末しか見えないけど…それで、あなた達は何らかの『違和感』に気付いたのではないかしら。たとえば…『今持っている武器が違う』とか」

「違和感を持つのは仕方ないわ。『記憶』だけを『この世界』に飛ばしたエクセリアでさえ、最初は時間軸の辻褄が合わなかった、という問題が祟ってかなり混乱したみたいだもの。そして、ここ龍刻では、そんな『超える力』を持つ者に対して魔女狩りも同然の迫害を行っている。それを決めたのは、龍姫公…私達の知るエクセリアとファーストネームを同じくする、この国の為政者よ」

リーン

「そして、私達は龍姫公を討つべく、密かに動いている。彼女の暴挙が、ヴァルマーレに及ぶ前に…何としても、止めなければならないの」

その時、ギルドの扉が開く。

????

「戻ってきたぞ。…なんとか、説得には成功した。あとは龍姫公を玉座から引きずり下ろすだけだ」

そこには、見慣れた影——エクセリアと、なにやら見慣れない影を見た。

蘆田

「お初にお目にかかる。俺の名は、蘆田正規。

ヴァルマーレ帝国の陸軍大臣を務めている。

貴公らの武勇はエクセリアから聞いている。どうやら、『祝福無き者』の1体を、素人ながらも討ち倒したそうじゃないか。我々も、彼らの干渉には困っているのぞな」

(※GMメモ：RP待機)

蘆田

「…我々も、鉄華団には頭を抱えている。彼らは、祝福無き者と組み、世界を滅ぼすべく暗躍している。そこに、彼らの玉座があると信じているのだろうな。

だが、今回ここに来たのは、彼らの始末が目的ではない。フレイディア、ヴァルマーレ双方が抱える蛮族問題…。それに対する一手を打つためのものだ」

エクセリア

「海の蛮族である『サハギン族』の掃討。これが、今回の依頼だよ」

蘆田

「…表立って軍を動かせば、サハギン族も相応の対応をしてくるからな。祝福無き者を討った冒険者の実力、頼らせてもらうぞ」

報酬は1300ガメル、とのことだった。

前金としてもらえる金はなく、君達は己の貯蓄で奮戦するしかないようだ。

海岸にて

フレイディア近辺の海岸に行ったところ、君達はそこでぎゃあぎゃあ叫んでいる蛮族を目にすることになる。

ここで魔物知識判定を行えば、正体を勘ぐることができるかもしれない。

魔物知識判定（判別のみ） 目標値：10

成功時、それがサハギン族であることが分かる。

強襲するなら今しかないだろう。

隠密（スカウト or レンジャー敏捷）判定 目標値：10

成功時、敵の数が半減する。

敵：ケルディオン・サハギン×10（不意打ち成功時は5体）

この戦闘では「警戒度」というゲージが存在します。

出現した敵1体につき、ラウンド終了時に1蓄積します。

100蓄積した瞬間に敵の増援が来ます。

敵増援：ケルディオオン・サハギンロード×1、ケルディオオン・サハギン×10

君達はサハギンたちを撃破した。

しかし、上空になにやら怪しい影が現れる。馬に乗った騎士、といった風貌だ。

魔物知識判定 目標値：不明（※GMメモ：目標値は無限（自動成功以外は失敗と見做す処理）であり、判然としない）

エクセリア

「…まさか、オーディンが出てくるとはね。ちと、やってやるしかないか…！」

そう言って、エクセリアは飛び上がって光を纏う。

直後、大型の影を見ることになる。

宙準星の竜。

それが口にエネルギーを溜め、光を放つ。その直後、大型の、宇宙色の大剣を現すと、鎧の騎士めがけて斬りかかる。翼にエネルギーを溜め放った、うねうね曲がる光線も、鎧の騎士の斬撃によって防がれる。

そのまま5度、剣戟を交わし、そして互いに離れていく。

そうして、君達の前に戻ってきた宙準星の竜が、光が解れるようにして消え、翡翠色の宝玉のようなものがあった位置からエクセリアが降りてくる。

エクセリア

「…オーディンが去ったからよかったものの…。バルナバスめ、何を考えている…」

（※GMメモ：RP待機）

君達は、エクセリアの言葉の後に、何やら邪な気配を感じるだろう。

しかし、それだけだ。敵意などを感じるといったこともなく…ただ邪悪を感じるだけ。

（※GMメモ：ここから第三者視点）

????

「データ取得完了。どうです？感想は」

????

「今はそれほどのものは。だが…」

????

「ええ、可能性のある者はすべて消去します。それが、我々の計画ですから」

(※GMメモ：ここで主観(PL)視点に戻る)

その直後、エクセリアが焦ったような表情で君達を見る。

エクセリア

「…マズいことになった。ヴァルマーレの過激派が、こちらに近付いてきているらしい。

ヴァルマーレ国内の過激派は蘆田が受け持っているが…、こちらへ近付いてきている部隊はこっちで殲滅してくれ、とのことだ。

…報酬は 800 ガメルに加え、歩合制で 1 体あたり 50 ガメル。受ける以外に選択肢はないぞ…！」

そうこうしているうちに、海岸から、まるで「次元の壁を打ち破るかのように」、見慣れない敵が現れる。

見たところ、機械の人形といったところだろうか。

それが大量に現れた。

敵：ファウンデーション・マギレプリカ×5

マギレプリカ戦 4 ラウンド目プレイヤーフェーズ (4PP)

君達が戦っていると、そこへ新たな機械兵が現れる。

四足歩行の導体に、大砲を備えた砲塔を乗せており、重厚な外見を持つ存在。

おまけに、後には大量の、上半身が謎のパーツがついた機械兵がずらっと並んでいる。

敵：ファウンデーション・ポジトロンドーム×1、ファウンデーション・マギレプリカ (攻撃できない) ×10

特殊敗北条件：ポジトロンドームを、11 ラウンド目の終了時に討伐できない。

覚醒

君達はファウンデーション・ポジトロンドームを討伐した。

しかしその瞬間、エクセリアの様子が変貌する。

まるでなにか、異物を見たような…。

その直後、光と共に、エクセリアがいた位置に『異形』が現れる。

(※GMメモ：BGM「Away (FINAL FANTASY XVI)」)

かつて君達を焼き尽くした存在が、そこにいた。

その獣の視線の先には、疑似氷神シヴァノセイヴァーを顕現させていたリーンの姿が。

リーン

「誰だ…。お前は…！」

獣がリーンめがけてすっ飛んでいく。量子化を用いてうまくいなしたリーンは、上空へすっ飛んでいった獣を追跡する。

リーン

「正気を失っているみたいだが…、敵意を剥き出しにするなら…！」

敵：斑焰の召喚獣

このフェーズではリーン・ウォーターズ（疑似氷神シヴァノセイヴァー）を操作します。

3 ラウンド目敵フェーズ（3EP）

「未来創世撃一ザ・ジェネシス・バースト」まで、あと——

リーン

「させない…！これ以上は…！」

5

(※GMメモ：RP待機)

未来創世撃一ザ・ジェネシス・バースト

リーン

「そんな、間に合わなかった…！？」

疑似氷神シヴァノセイヴァーに 20 万のダメージ…？

疑似氷神シヴァノセイヴァーの「量子化」

リーン

「開始早々、未来の糧になんてされたくないからね…！」

疑似氷神シヴァノセイヴァーの「GN ソードIIブラスター零距离照射」

珖焰の召喚獣に 99 万 9999 のダメージ

EIKON OF FIRELIGHT VANQUISHED

珖焰の召喚獣による疑似氷神解体ショー

吹き飛ばされ、地に墜ちた獣。

しかし、ここからが『見せ場』と言わんばかりに、獣は一瞬にして姿を消す。

コンマ数秒、いや、マイクロ秒未満の時間もかけず、獣は、地面に「クソデカいクレーター」を、疑似氷神シヴァを使って作り出した。

純粋な暴力により、いきなり始まった『解体ショー』。

獣は、疑似氷神シヴァの両肩から生み出される莫大なエーテルを喰らいつつ、疑似氷神シヴァから抗う力の尽くを奪う。

腕を折り、脚を折り、そして両肩の GN ドライブをも破壊せんと突き進む。

一際吼えた瞬間に、リーンも『黙って殺られるか』と言わんばかりに、骨折も覚悟で殴りかかる。

が、それを軽々と受け止めた獣は、節々から光を放つ。

緑色の光。

奇しくも GN 粒子と、獣由来の殺意に塗れたエーテルが混じり合った暴風は、その力によって環境を破壊し尽くした。

その直前、リーンの胸元を獣の手刀が貫いた。

(※GM メモ : RP 待機)

氷炎の後

(※GM メモ : BGM 「Secret Betrayal (DARK SOULS 3)」)

氷と炎の反応により、雨が降りしきる中、火傷によって動けなくなっていた君達は、蘆田の手により治療が行われていた。

蘆田

「しかし、参ったもんだ。疑似氷神シヴァが現れていたのは重々把握してたんだが、あの化け物だ。最も、お前達が生きてくれていたのはありがたい話だ。フレイディアに下げる頭がなくなってしまうからな」

そこへ、もたもたと歩いてくる影がひとつ。

リーン

「…みんな…無事…!？」

(※GM メモ : RP 待機)

蘆田

「…リーン、生きていたのか」

リーン

「応急処置はしました。

胸を貫かれたときはどうかと思いましたが…、見ての通り、無事です」

(※GM メモ : RP 待機)

あまりの不死身っぷりに、蘆田も乾いた笑いを浮かべてしまう。

蘆田

「本当に不死身だな。憑依型蛮神を宿すものは、根っこは生身の人間だというのに。

しかし、ひどいやられっぷりだな。顕現どころか、あまりにも深い傷を負ったせいか半顕現すら解けている」

彼の言っていることは正しかった。彼女の佇まいは、これまで見ていた「氷の王女様」と言えるものではなく、白いワンピースとロングブーツを着込んだだけの、若々しい少女のそれになっていた。

そして、彼女は、まるで疲労で落ちるかのように、気を失ってしまった。

滅尽の想念

君達が「暗魂の暁」に帰還すると、エメリーヌが心配したような様子で君達を見る。

エメリーヌ

「エクセリアは！？」

(※GMメモ：RP待機)

エメリーヌ

「そう…。エクセリアが行方不明になっているのよ。あの騒動から…」

「報酬は、提示の倍額出させてもらおうわ。少し、休んでから考えましょう？」

報酬

経験点

- ・基本：1000 点

資金

- ・基本（サハギン+機械兵）：3100G
- ・エメリーヌによる補填：3100G
- ・蘆田による補填：800G

名誉点

- ・基本：40 点

成長回数

・基本：3回